

配食用小型電気自動車を寄贈

「吾野園」の武州清寿会へ

みずほ教育福祉財団

飯能市南川で特別養護老人ホーム「吾野園」を運営する社会福祉法人武州清寿会（加藤徹留理事長兼施設長）に、公益財団法人みずほ教育福祉財団から配食用小型電気自動車「みずほ号」1台が寄贈された。武州清寿会が吾野地区で実施している配食サービスの足として活用される。

提供している非営利の民間活動団体の支援を目的とし、平成15年に開始。以来、今年度で19回目となり、寄贈した数は累計198台。今年度は武州清寿会を含め全国14か所へ各1台が寄贈された。

武州清寿会は、特別養護老人ホーム吾野園での入所、通所介護（デイサービス）に加え、吾野地区の高齢者や体の不自由な人など何らかの事情により食事の

支援を必要とする世帯への配食サービスを実施。希望する世帯に栄養バランスを考えた日替わりメニューをお届けるとともに、声かけを通じ安否確認を行っている。

寄贈された小型電気自動車は、乗車定員1人で、後部に配食用のデリバリーボックスを装備。最高時速

配食サービスに活用

60キロで、約6時間で満充電、1回の充電で57キロ（参考値）の走行が可能という。寄贈式は吾野園で行われ、同会を推薦した飯能市社会福祉協議会の野田剛主幹が立ち会い、みずほ教育福祉財団の林敏朗福祉事業部長が加藤理事長へ目録を贈呈。その後、車両の説明や実際に運転を行う職員の試乗が行われた。

目録を受け取った加藤理事長は寄贈に感謝し、「山間地域なので狭い道や勾配のある場所が多い。今回寄贈頂いた車は小回りが利き、すれ違いもしやすいので、有効活用していきたい。また、珍しい車両なので、利用者との話題にもなるのではないかと話している。



目録を手にする加藤理事長と財団の林福祉事業部長